

WINDS CAFE 337 in 原宿 Violin×Piano Duo Concert

～名曲フランクのヴァイオリンソナタに珍曲と新曲を添えて～

Violin 迫田圭 Piano 宮阪優奈

エルネスト・ブロッホ : バール・シエム

E. Bloch : Baal Shem

迫田圭 : ヴァイオリンソナタ第2番 (改定版初演)

K. Sakoda : Sonata for Violin and Piano No.2 (Revised version premiere)

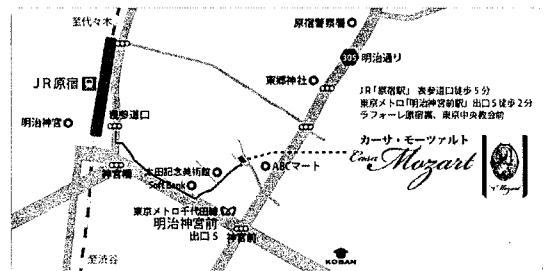
セザール・フランク : ヴァイオリンソナタ

C. Franck : Sonata pour Piano et Violon en La majeur

2025年1月26日(日) Open:15:30 Start:16:00

カーサ・モーツァルト(原宿駅より徒歩すぐ)

入場料無料、投げ銭制



*当公演は、完全予約制です。会場の定員を超えそうな場合は申し込みをお断りする可能性があることをご理解いただけますと幸いです。

詳細・予約方法につきましては、下記 URL サイトをご覧ください。

<http://tatsutoshi.my.coocan.jp/Up.html>



バール・シェム Baal Shem

エルネスト・ブロッホ(1880-1959)は、スイスで生まれ、後にアメリカに渡ったユダヤ人の作曲家である。彼はユダヤ民族主義をモットーとし、ユダヤ的な性格の濃い作品を数々残している。

「バール・シェム」は1923年書かれ、作品の表題は、ハシディズムの創始者バアル・シェム・トーブに着想を得ている。また、「ハシディズム教徒の生活の3つの情景」という副題を持つ。作品は母に献呈された。

第1曲:ビドゥイ(Vidui)

ビドゥイとは「懺悔」という意味で、汚れた魂を抱いて教会に戻ってきた罪ある人間の懺悔の感情を表わした曲である。

第2曲:ニーグン(Nigun)

この曲は「バール・シェム」の中でも最も有名な曲であり、独立して演奏されることも多い。ニーグンとは「即興的」という意味である。

第3曲:シムカス・トーラア(Simchas Torah)

シムカス・トーラアとは「歓喜」という意味であり、ユダヤの民へのシナイ山上の神の示現に対する歓喜が描かれている。毎年行われる祭りの音楽であり、祈りの後に繰り広げられる歌と踊りの様子が表される。

迫田圭 ヴァイオリンソナタ第2番

2014年に自身のリサイタルでの初演のために書いた作品。その前年に、亡くなった恩師を悼んで作曲した「弦楽とピアノのための夜想曲第1番」から旋律を借用してソナタとしてまとめられた。第2楽章の後ろ半分に不満があったため、今回はハッサリと破棄し改訂したものを演奏する。

第1楽章 Moderato assai

典型的なソナタ形式。2つの主題を持ち、展開部、再現部と一般的な進行で、初見でも曲の構造がわかりやすく書かれている。展開部は進むにつれて遅く、音数が減っていく。

第2楽章 Variazioni con intermezzi

主題、5つの変奏、3つの間奏曲と終結部を持つ、変則的な楽章。

[主題]主題としては非常に簡素なもの。4/2 拍子でとても遅い。

[第 1 変奏]主題の 3 度下降の音形を用いて行ったり来たりする自由な変奏。

[間奏]ピアノのオクターブユニゾンとヴァイオリンパートの対話が特徴的。流れるように第 2 変奏に橋渡しされる。

[第 2 変奏]主題がピアノによって再現される。主音の増 4 度上のコードが用いられることにより劇的な印象を与えられる変奏。

[間奏]全体的に滑らかだった曲調からすると、とても軽快かつリズムカルな部分。新たな変奏への幕開けとしてここに間奏を挟んだ。

[第 3 変奏]主題の動きを用いたヴァイオリンの走句に、主題や第 1 変奏に似たピアノの旋律が彩りを添える。第 2 楽章で唯一短調の変奏。

[第 4 変奏]力強いピアノのメロディーが印象的。主題からはかなりかけ離れた楽想であり、変奏とは言い難いものの随所に主題の断片が散りばめられている。

[間奏]自由なピアノソロ。雰囲気を変える役割を担う。

[第 5 変奏]拍子を変えて主題をより旋律的に変奏させた。歌う部分の少なかったため加えた。[終曲]主題と同じテンポに戻る。自由に動くヴァイオリンに対して、ピアノが常に主題を提示し続ける。

フランク ヴァイオリンソナタ

ベルギー出身の作曲家・オルガニストであるセザール・フランクが、1886 年に作曲。

同郷の後輩であるヴァイオリニストのウジェーヌ・イザイに結婚祝いとして作曲され、献呈された。同年 12 月 16 日にイザイによって初演されている。

30 分近い大曲で、循環形式と呼ばれる、楽章間で共通の主題や動機を用いて楽曲全体の統一する作曲技法を用いた作品。結婚祝いということもあり、楽章ごとに歳を重ねた夫婦の関係性の変化を表しているとも言われる。交響曲並みの規模感でありながら、室内乐的な良さも随所に表れる名曲である。

第 1 楽章 Allegretto ben moderato

簡素なソナタ形式。開始の属 9 和音による独特の浮遊感が心地よい。

第 2 楽章 Allegro

ソナタ形式。激しくとても充実した楽章。ここに登場する動機は以後の楽章でも重要な役割を担う。

第 3 楽章 Ben moderato

「幻想的な叙唱」(Recitativo-Fantasia)と題された、自由な形式による楽章。終盤で登場する第 1 楽章の主題が大変美しい。

第 4 楽章 Allegretto poco mosso

ピアノとヴァイオリンの美しいカノン風の楽想。時折第 3 楽章の主題が影を落とすも徐々に明るさを増してゆき、輝かしく曲が終わる。

●**迫田圭(さこだ・けい)**:東京音楽大学大学院に給付奨学金を得て入学、修了。第 28 回市川市新人演奏家コンクール弦楽器部門最優秀賞。プロジェクト Q 第 10 章に参加。2018 年に出演した第 3 回伊左治直個展～南蛮劇場～が第 18 回佐治敬三賞を受賞。

若手作家の新作初演にも数多く携わっており、サントリーサマーフェスティバル内の芥川作曲賞選考演奏会ではソリストを務める等、精力的に活動している。

現在おーけすとら・びとれ座にてコンサートマスターを務めている他、オーケストラ・トリプティーク、green room players にヴァイオリン・ヴィオラ奏者として在籍している。町田・大熊バイオリン教室、WE LOVE MUSIC にて講師を務める。

●**宮阪優奈(みやさか・ゆうな)**:北海道出身。東京音楽大学ピアノ演奏家コース卒業、同大学院修士課程(伴奏)を首席修了後、同大学非常勤研究員・伴奏助手を経て現在多方面で演奏活動を行う。

これまでにピアノを佐藤睦美、北島公彦、橋高昌男、植田克己、佐藤俊、石井克典、村田理夏子、P.Devoyon、

L.Margarius の各氏に、伴奏法・室内楽を山洞智、土田英介、門脇大樹の各氏に師事。

万里の長城杯国際音楽コンクール、日本演奏家コンクール木管楽器部門にて伴奏者賞を受賞。上野 de クラシック、ホテルオークラロビーコンサート、N 響メンバーによる室内オーケストラコンサート等これまでに多数の演奏会に出演。国内外の名手と共演を重ね、多方面から厚い信頼を得ている。